

水田畑地化ほ場で除礫実証工事実演会を開催

農林基盤部 黒岩 聡
生産流通部 赤野 和恵

9月17日、県営経営体育成基盤整備事業 山吹地区(国東市国東町原)のこねぎハウス建設予定地で除礫実証工事実演会を実施し、関係機関や生産者など49名が参加しました。事業担当が実施地区の概要を説明した後、2つの除礫機械を実際に稼働させ、礫の粉碎や除去の程度を確認しました。

作土下に礫が多い水田で畑作物を作る場合、農作業の支障や農業機械の摩耗の原因となるので、除礫対策は排水対策と共に水田畑地化の大きな課題となっています。今後も、園芸導入品目に合わせたほ場の条件整備を進めていきます。



ストーンクラッシャー・ストーンピッカーの実演

農業参入企業のお仕事見学会を実施

農山漁村振興部
本多 鈴美

新型コロナウイルス緊急事態宣言後、外国人労働者を雇用していた農業参入企業を中心に労働力不足が深刻化したことから、管内の潜在的な新規労働者を掘り起こすため「見学会」を9月24日に実施しました。まず、管内の雇用・求人状況の把握と企業へ企画提案を行い、さらに求職者へのアピール方法や従業員の育成・定着等の研修を行いました。管内住民へは市町報掲載やハローワークでの周知を行いました。

当日は、参加企業8社に対し11名の申込があり、熱心な説明に参加者の感想は良く、後日、数名の就労申込がありました。



農業参入企業から説明を受ける参加者

しいたけ新規参入者への普及指導を強化!

農山漁村振興部
寄井田 祥平

原木しいたけ生産者が安定した栽培技術を習得できるよう、生産者指導を行っている種菌メーカーと指導方針を検討する「技術検討会」を開催し、指導方針の統一を行いました。さらに、新規参入者向け研修会では、統一した指導方針を元に、振興局と種菌メーカーが気候変動に対応した栽培技術の指導を行いました。

今後も種菌メーカーと連携を深めるとともに、令和3年2月を目途に管内の主要な乾しいたけ産地である国東市において生産者団体を設立し、効果的な指導に努めていきます。



技術検討会及び新規参入者研修会の様子

基盤整備事業による水田畑地化の推進

日出水利耕地事務所
榎木 祐太郎

杵築市大字大内の小狭間地区(11.5ha)では、平成30年度から水管理省力化を図る用水路のパイプライン化と、作物の品質向上を図る暗渠排水を整備しています。地域に適した作物検証のため、今年4月からショウガとキクイモの試験栽培に取り組んでいますが、生育は順調で、ショウガについては11月に収穫し、目標を上回る収量を確保できました。

従来、水田農業を中心とする地域ですが、地元の(農)小狭間では、「法人の新たな作物にしたい」と期待も高まっており、地域に適した畑作物の導入を目指しています。



ショウガとキクイモのモデルほ場